

第三回 学校運営協議会議事録

〈日時〉 令和5年2月8日(水) 15:30~16:50

〈場所〉 メモリアルーム

〈出席者〉 学校運営協議委員 江藤 佐友里、後上 鐵夫、山下 勝也、林 孝信

本校教職員 小畑 敦彦、川端 裕子、四反田 武志、松下 知弘、秋山 広樹、
野田 豊美、西本 知左、植田 康太 (敬称略)

- 〈資料一覧〉
- 1 第2回授業アンケート結果 (R4.12 実施)
 - 2 学校教育自己診断の結果
 - 3 学校経営計画 (R4年度評価/R5年度の目標)
 - 4 貝高フェスタ プログラム
 - 5 生活指導の状況について
 - 6 広報活動について
 - 7 進路状況 (17期生)

次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
 - (1) 第2回授業アンケートの結果について (教頭) <資料1>
 - (2) 学校教育自己診断の結果について (校長) <資料2>
 - (3) 学校経営計画について (今年度の評価/来年度の目標) (校長) <資料3>
 - (4) 貝塚高校教育フェスタについて (報告) (首席) <資料4>
 - (5) 生活指導の状況について (生活指導部) <資料5>
 - (6) 広報の状況について (首席) <資料6>
 - (7) 進路指導の状況について (進路指導部長) <資料7>
 - (8) 3年次団より (3年次主任)
 - (9) 授業改善の取組について (指導教諭)
 - (10) その他
- 4 質疑
- 5 閉会

協議内容

1、議事

(1) 第2回授業アンケートの結果について (教頭)

1. 授業アンケート実施の目的

「すべての生徒がわかる授業」を実現するために、教員の振り返りに活用する

2. アンケート結果から

- ・例年度よりポイントの減少幅が大きい。
- ・授業に対する生徒の意識が変わってきたか。
- ・3年生の目的意識が表れているかもしれない。
- ・新規採用教員のポイントが高くなっている。
- ・超ベテランの教員もポイントが高くなっている。

(2) 学校教育自己診断の結果について (校長)

1. 教職員

- ・授業の工夫をしている教職員が多い。
- ・ICT機器の活用をしている教職員が多い。

2. 生徒

- ・「わかりやすく楽しい授業が多い」と思わない生徒が4割いる。
- ・人権に関する質問項目に関してのポイントは高いものの、年々下がっている。
- ・学校行事に関するポイントは高い。

3. 保護者

- ・「学校へ行くのを楽しみにしている」の項目を肯定する割合は高いが、「授業が分かりやすい」という割合が高いわけではない。
- ・「子どもが貝塚高校へ入学してよかった」についての割合が非常に高かった。

(3) 学校経営計画について (今年度の評価/来年度の目標) (校長)

1. 今年度の評価

- ・授業に関する研修の実施。
- ・遅刻数の増加。(1月時点で5800)

2. 来年度の目標

- ・学習力向上チームでの授業見学
- ・生徒のやる気の出る評価を研究
- ・人権教育が進路指導や生活指導のベースにあることを意識する。
- ・遅刻数を4400に減少させる。
- ・働き方改革の実施。

部活動のペアリング、週1日を定時退庁日に

質疑①：部活動の取り組みについて詳しく教えていただきたい。

応答①：2校でのペアリング、今後の部活動の体制についての説明 (校長)

質疑②：遅刻総数の大幅な増加の原因は何か。

応答②：学年によってばらつきがある（年次が上がるにつれて増える。）ため不透明。コロナによる影響もあり得る。他校も多くなっている傾向がみられる。遅刻のカウントと指導を細かくしていく。遅刻の本質について生徒に話をする必要はある。（生活指導部長）

応答②'：コロナの影響で体調の悪いときは休んでもいいというマインドになっている。また、本校性の特徴として、学校が好きだから、遅れてでも学校に登校する生徒が多い。（校長）

質疑③：遅刻したら漢字を書く指導は行っているのか、また従っているのか。業間遅刻をとっていないのか。

応答③：早朝登校を失敗した場合は漢字を書かせる指導を行っているが、指導に合わない生徒もいるため改善が必要になる。総合学科で選択科目が多く、教室が離れているという事情から業間遅刻は取っていない。（生徒指導部長）

（4）貝塚高校教育フェスタについて（報告）（首席）

1. 今年度

1年生は産業社会と人間についての発表、2年生総合的な探究の時間についての発表、及び選択科目での学習成果について発表した。昨年度とは違い、コスモシアターにて実施。幼児体育実践のみビデオによる発表とした。

2. 来年度

今年度は平日開催としたが、コロナ前の休日開催に戻す予定。

3. 質疑応答

質疑：保健委員会の発表は毎年行っているのか。なぜ睡眠不足による心身への影響にしたのか。遅刻数の大幅な増加に関連しているのか。

応答：保健委員会の発表は毎年行っているが、テーマの決定の理由に関しては定かではない。（首席）
保健委員会のこの発表は、全生徒にアンケートを取り実態を調査して行ったもので、大阪府代表にも選ばれた発表である。（校長）

（5）生活指導の状況について（生活指導部）

1. 現状

- ・遅刻欠席については来年度第1回に提出する予定。
- ・制服について、今年度は選択購入にした。性的マイノリティーへの配慮になっている。男子へのスカートの対応は個別対応としている。
- ・服装の乱れが目立った。（カッターシャツを着ない、シャツ出し。ブレザーなし上着着用、ジャージをスカートの下に履く、等。）制服の未着用は、今年度は、貸し出しから再登校指導に切り替えた。
- ・交通指導として、交通安全講習会、正門前での立ち番、駐輪指導を行った。
- ・駐輪マナーの指導は継続して行うことで改善が見られた。

2. 今後について

- ・PTA 総会での提案から、皆勤賞のみではなく、精勤賞を増設する。

(6) 広報の状況について (首席)

1. 本年度の取り組み
 - ・ オープンスクール
 - ・ 第1回学校説明会 160名参加 (200名以上の応募があった)
 - ・ 第2回学校説明会 (応募人数は第1回より少ないが意欲は高めか)
 - ・ 大阪府公立高校進学フェアへの参加 3年ぶりの開催 38名来場
 - ・ 泉州中学校・高等学校進学説明会参加

(7) 進路指導の状況について (進路指導部長)

1. 大学
 - ・ 大学進学者の増加。
 - ・ 専門学校と就職者が減少した。
 - ・ 桃山学院大学 13名 四天王寺大学 6名が合格
2. 短大
 - ・ 保育系の大学への進学者は多い
3. 大学校
 - ・ 看護に関する大学校への進学
4. 専門学校
 - ・ 看護、美容理容、衛生分野への進学が多い。
 - ・ 看護の進学率 2年連続 100%をめざしている。
 - ・ 7人に1人が看護に進学している (特色)
5. 就職
 - ・ 16名の学校斡旋就職。(1次で 100%合格)
 - ・ 面接回数が非常に多い。(教員の協力が強固)
6. 奨学金
 - ・ 利用者が年々増えている。

(8) 3年次団より (3年次学年主任)

1. 3年間を振り返って
 - ・ 新型コロナウイルスによる未曾有のスタート
 - ・ マスク着用などの観点からコミュニケーション能力の減少から人間関係の構築の難しさを痛感
 - ・ その中でも講習、面接等を充実させ進路実現に導くことができた。
 - ・ 2月末日の卒業式をコスモシアターで実施することで保護者を歓迎する。

(9) 観点別評価について (指導教諭)

1. 振り返り
 - ・ 勉強会の実施
 - 新しい評価方法の難しさを実感。
 - 来年度以降は2年での選択科目も観点別評価になる。

2. 来年度以降に向けて

- ・めざす貝塚高校生を意識して評価基準を考え、指導と評価の一体化について考える。
- ・授業の逆向き設計への取り組みする。
- ・教職員の連携を深める。

2、質疑・意見・感想

- どんな貝塚高校生にしていくのか、私も考えさせるところだった。人権教育、キャリア教育が一つのカギになる。その一方で、学校教育自己診断を見ると人権に関する割合が5ポイント下がっているのは気になる。また、コロナの状況やひとり親家庭の増加の中で、家庭での課題を抱えた生徒も多くなっている。生徒の規範意識を育むにはどうしたらいいのか。
- 学校教育自己診断の「避難訓練や交通事故防止について」の割合が低いのはなぜか。
→ 教室で実施したのもあったが、実際に校庭に避難する防災訓練が1回だけだったからか。(教頭)
- 時代の流れが激しい中で、子どものSNS利用などでのネットニュースが多くなっている中で、貝塚高校生は恵まれていると思う。一方で、相手のことを考えない誹謗中傷に近い言葉遣いや基礎的な考え方が問われていると痛感した1年だった。
- ユネスコが日本教育を批判している。「特別支援教育は差別である。」と唱えている。本来の子どもたちに必要な支援とはどのようなものなのか、もう1度考え直してみたいと思った。

3、その他